



日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（第5回） 議事概要について

1. 検討会の概要

日 時：平成28年3月1日（火） 13:00～15:00

場 所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：平田座長代理、今村委員、入倉委員、岡村委員、佐竹委員、谷岡委員、
翠川委員

2. 議事概要

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震について議論を行った。概要は、次のとおり。

- 太平洋プレートの形状で、海山の影響も全体の規模から考えると大きなものではないと思うが、形状によってどのくらいの誤差がでるか推計すべきである。
- 17世紀の千島海溝の津波と1611年慶長地震による津波は地質学的に区別が難しく、ひとつだった可能性がある。最大クラスの地震・津波を検討するためには、同一の地震による津波堆積物である可能性を排除すべきではない。
- 過去の津波堆積物から津波高を推定する際、従来どおり「津波堆積物の位置+2m」とすることが基本的な考えであるが、津波堆積物の分布域は地形で規制されることがあり、平野が広いところではもっと津波が入ってくるということに留意が必要。
- 過去の海岸線地形の正確な復元は難しいが、今の地形を使った場合でも、津波の過小評価にはならない。
- 当時の海岸線の位置により浸水域が広がる可能性があり、この点について考慮することが必要。
- 最大クラスの地震・津波の考え方について、少なくとも過去に起こったことのある地震・津波の最大のものは超えないといけないといけないのではないかと。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当企画官 森本 輝

同参事官補佐 池田 雅也

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-6820